

第1学年音楽科学習指導案

日時 平成20年9月12日(金) 2校時

学級 盛岡市立下橋中学校 1年3組

(男子12名、女子16名、計28名)

授業者 阿部 美穂

1 題材名 歌詞と曲想のかかわりを感じ取ろう。

教材名 「COSMOS」 ミマス 作詞・作曲 富澤裕 編曲

2 題材・教材について

本題材は、中学校学習指導要領「音楽」の

A 表現

ア 「歌詞の内容や曲想を感じ取って、歌唱表現を工夫すること」

イ 「曲種に応じた発声により、言葉の表現に気を付けて歌うこと」

エ 「声部の役割を感じ取り全体の響きに気を付けて合唱や合奏をすること」

キ 「音色、リズム、旋律、和声を含む音と音とのかかわり合い、形式などの働きを感じ取って表現を工夫すること」

ク 「速度や強弱の働きによる曲想の変化を感じ取って、表現を工夫すること」

にかかわる学習内容である。

この作品のオリジナルは、アクアマリン(ミマス&Sachiko)というユニットの曲で、文部科学省国立天文台主催のスターウィーク(毎年8月1日~7日)のテーマソングになっている曲である。

歌い出しは、弱起で始まり、優しく伸びやかな旋律である。途中から3部合唱になり、色彩豊かな音楽になる。そして、転調を経て、盛り上がりが登場してくる。

ユニゾンからハーモニーへの変化、他の声部とのかけあい、転調など、表現の工夫がしやすく演奏効果をあげることができる合唱曲である。

本教材は合唱コンクールの課題曲でもあり、これまでに学習したことを生かしながら、生徒自身で表現方法を深めていくのに適した合唱曲であり、新学習指導要領の第1学年の目標にも迫ることができると考えた。

3 生徒について

明るく元気に活動する生徒が多く、特に男子は表現活動に意欲的である。これまでに、頭声発声の指導を通じて、心地よく声を出す方法について学習してきた。男子には、変声期をむかえようとしている生徒が若干名おり、その中には「声の出し方が分からない」と感じている生徒もいる。歌うことに苦手意識を持たせないように、学級全体で取り組む合唱を通じて、声を響かせているという共感や、ハーモニーを感じる場面を作り、音楽の楽しさや豊かさを体感させたい。

これまでの学習は、斉唱の曲と2部合唱がほとんどであり、音程をしっかりとつかんで歌うことや響きのある声づくりを中心に指導してきた。

本教材は、流れ星が流れていくような、なめらかで美しい旋律であり、生徒が好きな曲である。「COSMOS」の表現を通して、音楽を形づくっている要素「強弱、旋律、構成」を、音楽活動を通し

て理解し、作詞者・作曲者の意図を感じ取らせ、声部の役割や全体の響き、歌詞の意味を考えた強弱の変化や曲想を工夫する能力を育てたいと考えた。そして、イメージを膨らませた歌い方や言葉の表現にあった歌い方の工夫を交流しながら、1つの合唱曲をみんなで創り上げていく楽しさや喜びを味わわせていきたい。

4 指導の構想

生徒にとって、学校以外の場所において、歌ったり音楽を聴くなど、生活の中で音楽を楽しむ場面はたくさんある。日常生活の中に溢れている音楽を、音楽科においては、どのような学習活動を行うべきなのか、どのようなことを学ばせたいのかという本質的な部分を明確化することは大切である。そのためにも、「習得・活用・探究」という学習の過程を明らかにし、指導計画を考えることが必要である。指導内容を整理し「習得」させたい基礎的・基本的な知識・技能を絞り込み、各時間の授業において、生徒が「何を学ぶのか」を意識できるような音楽活動を展開すること。そして「習得」した学習内容を「活用」し、「思考・判断・表現」という学習過程を通じて、表現意図を明確に持って表現すること。更に「活用」したことを、自ら深く考え発展させていくことを、より主体的に音楽と関わる「探究」と位置づけた。しかし、音楽の授業では、常に「習得」をしたことを「活用」する音楽活動が展開される。「習得」「活用」「探究」のそれぞれを段階として捉え、順次に分けて学習を進めるのではなく、連動させながら学習を進めていくことを想定して授業を構想したい。

「習得」「活用」「探究」が連動する学習活動の中で、「思考・判断・表現」という学習課程が重要になってくる。それは、生徒が課題を追求していく過程で、「どこが分からないのか」、「どこができないのか」が分かることや、友達の考えや表現に触れることから、課題の解決への糸口や自己修正のポイントを見つけ、フィードバックすること。そして、新たな課題を見つけて次のステップに進むことを指す。このような学習が行われるよう、授業において自己評価・相互評価を実施し、生徒自身が自分の「つまづき」や目標に対する「到達度」を捉えることができるようにし、教師も客観的に一人ひとりの「つまづき」や「到達度」を確認できるようにしたい。また、「活用」「探究」という学力の質が問われる学びにおいては、「パフォーマンス課題」を学習活動の中に位置づけ、「ルーブリック」をもとに学習の成果を見つめさせ、生徒の自己教育力を高め、自ら主体的に学習に関わろうとする興味・関心も養いたいと考えた。

前述した評価活動が有効に機能するためには、生徒一人ひとりの思いや考えが生かされる学習の場面を設定したい。具体的に述べれば、学習方法を考えたり、表現形態を選択したり、表現方法の工夫を個人やグループで練り上げる場面である。そのことによって、習得された技能をもとに、自分や友達のアイデアを生かしながら、表現を創意工夫して、練り上げ学び合う活動が可能になると考えた。このような学習活動は、「豊かな学び—創造的に表現する力」を育成することにつながると考えた。

5 指導計画・評価計画（5時間）

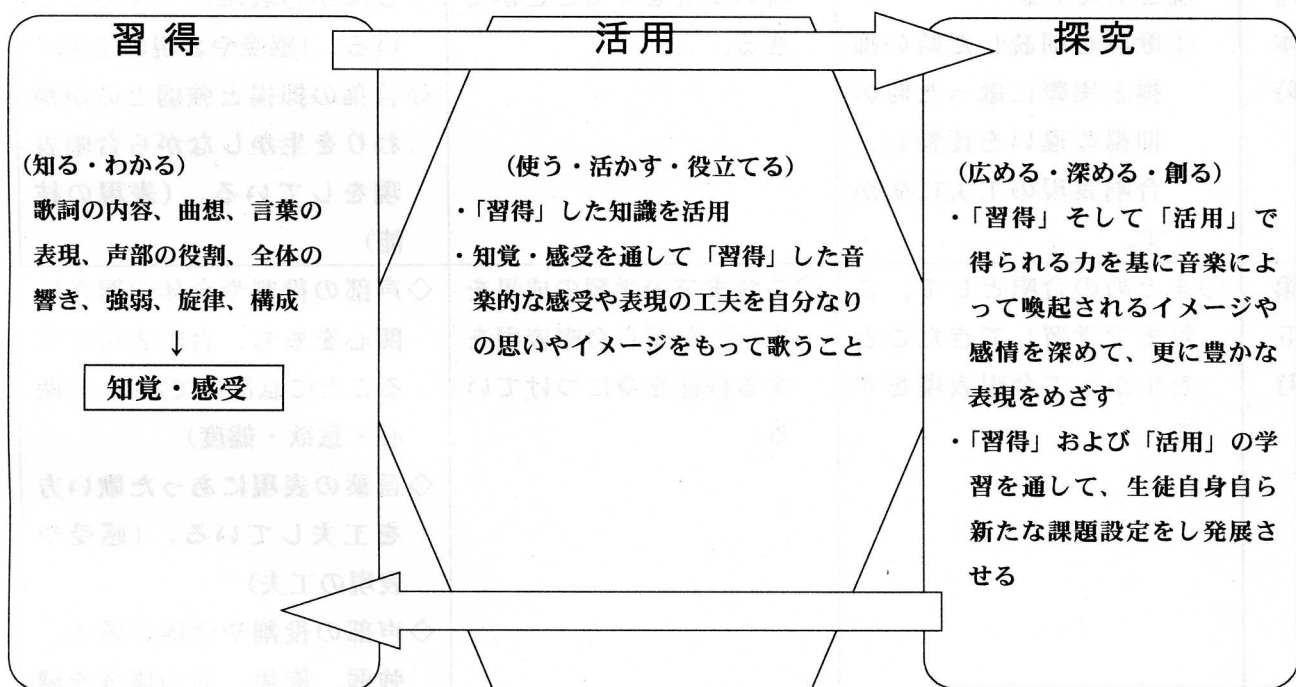
（1）評価規準

題材全体の評価規準

指導目標	音楽への関心・意欲・態度
○歌詞の内容や曲想を感じ取り、言葉の表現も含めて表現を工夫して	①歌詞の内容や曲想に関心を持ち、言葉などの表現の工夫に主体的に取り組んでいる。 ②声部の役割や全体の響き、強弱、旋律、構成を感じ取って、曲にふ

歌うこと。 ○声部の役割や全体の響き、強弱、旋律、構成を感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。	さわしい歌唱表現をすることに意欲的である。
	音楽的な感受や表現の工夫
	①歌詞の内容や曲想を感じ取って、歌唱表現の工夫をしている。
	②声部の役割や全体の響き、強弱、旋律、構成を感じ取って、表現を工夫している。
	表現の技能
	①歌詞の内容や曲想を生かして、歌唱表現をする技能を身に付けている。
	②声部の役割や全体の響き、強弱、旋律、構成を生かして、歌唱表現をする技能を身に付けている。

(2) 「習得」「活用」「探究」の学びの流れ図



(3) 題材の指導計画

時間	おもな学習内容	学習目標	評価規準
第1・2時	○表現要素によって生み出される曲想の変化を感じ取って、楽曲全体を聴き取る。 ○各声部の役割や全体の響きを感じ取り、パート練習で自分の声部の旋律を歌う。	○歌詞の内容や曲想を捉える。 ○響きのある声を意識しながら歌うことができる。 ○他のパートを聴きながら、自分のパートを歌うことができる。	◇パート練習や合唱練習に主体的に取り組んでいる。(関心・意欲・態度) ◇他のパートを聴きながら、自分のパートを歌おうとしている。(感受や表現の工夫) ◇自分のパートの音を間違えずに歌っている。(表現の技能)

第3時	<p>○歌詞の内容や曲想、強弱転調の働きによる曲想の変化を感じ取って表現を工夫する。</p> <p>①歌詞を読み、曲に対する自分のイメージや感情を明らかにする。</p> <p>②強弱・曲の構成による曲想の変化を生かした表現の工夫をする。</p>	<p>○歌詞の内容を味わい、曲に対するイメージを膨らませることができる。</p> <p>○曲の構成を理解し、曲想にふさわしい表現を工夫することができる。</p>	<p>◇歌詞を読んだりする活動に関心を持ち、曲から受けるイメージや感情を明確にしようとしている。(関心・意欲・態度)</p> <p>◇強弱・曲の構成による曲想の変化を生かした表現の工夫をしようとしている。(感受や表現の工夫)</p>
第4時 本時	<p>○言葉の抑揚と強弱とのかかわりを生かした合唱表現を工夫する。</p> <p>①歌詞を朗読した時の抑揚と実際に歌った時の抑揚の違いを比較し、合唱表現の工夫に生かす。</p>	<p>○言葉の抑揚と強弱とのかかわりを生かし、合唱表現の工夫をすることができる。</p>	<p>◇言葉の抑揚と強弱とのかかわりを感じ取り、イメージしながら表現の工夫をしている。(感受や表現の工夫)</p> <p>◇言葉の抑揚と強弱とのかかわりを生かしながら合唱表現をしている。(表現の技能)</p>
第5時	<p>○まとめの合唱として、これまで学習してきたことを生かして合唱表現をする。</p>	<p>○これまでの学習の成果を生かしながら合唱表現をする技能を身につけている。</p>	<p>◇声部の役割や全体の響きに関心を持ち、合唱表現することに意欲的である。(関心・意欲・態度)</p> <p>◇言葉の表現にあった歌い方を工夫している。(感受や表現の工夫)</p> <p>◇声部の役割や全体の響き、強弱、旋律、曲の構成を感じ取り、合唱表現をすることができる。(表現の技能)</p>

6 本時について

(1) 主題 「言葉の抑揚と強弱とのかかわりを生かした合唱を創り上げよう！」

(2) 目標、パフォーマンス課題

指導目標	<p>①言葉の抑揚と強弱とのかかわりを感じ取り表現の工夫をしている。(観点2)</p> <p>②言葉の抑揚と強弱とのかかわりを生かしながら合唱表現をしている。 (観点3)</p>
評価目標	評価方法
言葉の抑揚と強弱とのかかわりを感じ取り、イメージしながら表現の工夫をしている。(感受や表現の工夫)	<p>◎「パフォーマンス課題」</p> <p>「言葉の抑揚と強弱とのかかわりを生かした合唱表現をしている」</p>

言葉の抑揚と強弱とのかかわりを生かしながら、合唱表現をしている。(表現の技能)	言葉の抑揚と強弱とのかかわりによる美しい言葉の表現について考え、お互いの考えを共有し、よりよい合唱表現につなげることを目指す。
---	---

「ループリック表」

学習活動	評価項目	評価する活動・資料	ループリック		
			A	B	C
課題追求についての確認	感受や表現の工夫	「観察・発言」 「学習シート」	言葉の抑揚と強弱とのかかわりを理解して、理由や根拠を発言している。	言葉の抑揚と強弱とのかかわりに気づき、感覚的に気づいたことを発言している。	言葉の抑揚と強弱とのかかわりが分からない。
			「発言・学習シート記入例」 ・言葉の抑揚のとおり、強弱をつけた歌い方をするによって、自然な音楽の流れを表現することができる。 ・言葉の強い部分を強く歌うことによって、言葉の抑揚をきちんと伝えることができる。 ・言葉の抑揚を生かした強弱をつけることによって、自然な音楽の流れを表現することができる。	「発言・学習シート記入例」 ・言葉の抑揚の通りに強弱をつけて歌うとよい。 ・言葉のアクセントのところを、強く歌うとよい。	・友達の意見から、言葉の抑揚と強弱とのかかわりについて気づかせる。
課題追求	表現の技能	「観察」	言葉の抑揚と強弱とのかかわりを理解して、イメージを膨ら	言葉の抑揚と強弱とのかかわりに気をつけながら歌っている。	言葉の抑揚と強弱とのかかわりを感じ取って歌っていない。

			ませながら歌っている。		
			「実現状況の例」 ・言葉の抑揚のとおり に 強弱をつけた歌い方をし、強弱の細かい変化の ところ も表現に生かして歌っている。 ・言葉の強い部分を強く歌い、言葉の抑揚を表現に生かして歌っている。 ・言葉の抑揚を生かした強弱を意識して、自然な音楽の流れを歌っている。	「実現状況の例」 ・言葉の抑揚を生かした強弱に気をつけながら歌っている。 ・言葉のアクセントを意識して歌っている。	・周りの人の歌い方を聴き、参考にして歌うように助言する。

(3) 本時の構想

これまでの表現活動では、楽譜に明記されている強弱記号を感覚的に表現することだけに止まっている。生徒の中には「元気に大きな声」で歌うことが良いことだと思っている生徒がおり、そのために音楽の自然な流れを無視した歌い方になってしまうことがあった。

本時では、言葉の抑揚を音楽の流れに乗せて歌うことに焦点を当て、音楽の豊かさや美しさを感じ取り、創造的に表現を工夫する力を育てたいと考えた。

(4) 本時の展開

段階	学習内容	学習活動	時間	○留意点 ◆資料 ☆評価
導入	1. 既習事項の確認	○「COSMOS」を合唱する。 ・自分のパートを正しい音程とリズムで歌い、他の声部と響きを重ねて歌う。	4分	○曲の構造について助言をし、声部が重なる部分では自分のパートを明瞭に歌えるように意識させる。
	2. 学習課題の把握	○前時の授業内容を振り返る。 ・歌詞のイメージから、どのような表現にしたいかの意見を交流	6分	◆前時の学習シート ○自分の考えを言えるよう、前時の学習シート

	<p>する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞のイメージを表現するためには、どのようなことに気を付ける必要があるのか意見を交流する。 	<p>を参考にすることを助言する。また、歌詞の内容をイメージできるような言葉をかける。</p> <p>○「歌詞」からイメージを受けることに気づかせ、「言葉を大切にすること」などの意見を生徒の中から引き出し課題に結びつける。</p>
--	---	---

本時の学習課題 「言葉の抑揚と強弱とのかかわりを生かした合唱を創り上げよう！」

展 開	<p>3. 課題追求についての確認</p> <p>○言葉の抑揚と強弱とのかかわりについての考えを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主人は冷たい土の中に」の最初のフレーズを用いて、歌詞を朗読した時の抑揚と実際に歌った時の抑揚の違いを比較する。 	<p>5分</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆紙板書 ◆学習シート ☆言葉の抑揚と強弱とのかかわりを感じ取り、思考・判断しながら表現の工夫をしようとしているか。 ○歌詞の抑揚と実際に歌唱した抑揚を文字の大きさ等の変化で表し、視覚的に理解できるようにする。
展 開	<p>4. 課題追求</p> <p>○「COSMOS」の「夏の草原に 銀河は高く歌う」の部分を取り上げ、言葉の抑揚と強弱とのかかわりを生かした歌い方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌った時の抑揚と歌詞を朗読した時の抑揚の違いを比較しながら歌い方を工夫する。 	<p>20分</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆紙板書 ☆言葉の抑揚と強弱とのかかわりを意識し、思考・判断しながら合唱表現の工夫をしようとしているか。 ○歌い方については、自然な感じと不自然な感じを表現しながら比較する。
	<p>5. まとめの合唱をする</p> <p>○工夫したことを確認し、意識しながら合唱表現をする。</p>	<p>5分</p> <p>○教師の指揮で、表現を引き出す。</p>

終 末	6. 本時のまとめ	○学習したことを振り返り、本時のまとめとして「分かったこと」を学習シートへ記述する。	10 分	◆学習シート ○本時の学習課題に対するまとめを書かせる。 ○何人かに発表させる。
--------	-----------	--	---------	--